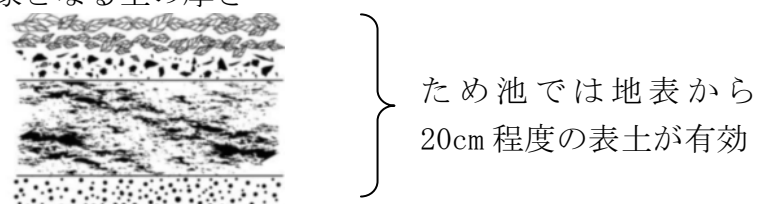


個票6 表土移植などによる地域の植生の復元

〔池1(1)④5-1 池2(2)①7-1 池3(1)①2-1 池3(1)①3-1 池4(1)①2-1〕

(2011年作成)

配慮の視点	生態系の多様性への配慮	配慮項目	生き物の生息・生育空間となる多様な自然とそのつながりの保全・創出
	種の多様性への配慮		野生生物の生息・生育環境の保全・創出
	遺伝子の多様性への配慮		遺伝子攪乱要因の排除・抑制
	外来生物への対策		侵略的外来生物の排除・抑制
配慮事項	豊かな土壌の保全・回復・創出		
	多様な緑地などの保全・創出		
	他の地域から動植物を持ち込まない・持ち出さない		
	侵略的外来生物の侵入・拡散防止		
配慮事例	既存の表土の保全		
	緑化での郷土種の植栽		
	植物などの郷土種が含まれている表土の活用		
内容	<p>●表土移植などによる地域の植生の復元</p> <p>【解説】</p> <p>ため池は築堤後百年以上、農家の営々とした維持管理がなされ、希少種を含めた郷土種の宝庫となっています。</p> <p>表土は遺伝子のプールとして利用することが可能であり、在来種による植生が再生され、導入した苗による緑化が引き起こすおそれのある地域固有の遺伝子の攪乱を避けることができるという利点があります。</p> <p>したがって、<u>現場内の有用な表土は、工事に先立ってできるだけ保存し、植生復元に再利用することが望まれます。</u></p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>●表土の貼り付け</p> <p>堤体表土には郷土種の種子が多く含まれ、シードバンクを形成していることから、これを築堤後に貼り付けることによって、郷土種による植生を再生します。</p> <p>①対象となる土の厚さ</p>		
	 <p>ため池では地表から20cm程度の表土が有効</p> <p>②工事に先立ち、表土をはぎ取り、他の土砂が混ざらないよう指定場所で保管</p> <p>③築堤後、バックホー等を使用し、法面に貼り付け</p>		

④外来種の張り芝に比べ、初期の植生被覆が遅く、強雨による法面浸食防止のために、草刈り作業の足場を兼ねた間伐材を利用したステップを設置



出典：1

表土貼る付け直後

郷土種の復元

●在来種のチガヤを植え付け

表土の貼り付けが出来ない箇所は、他種との共生関係が良好な在来種のチガヤを植栽します。

- ①当該地域でのチガヤの遺伝的分布の攪乱を避けるために、植栽する前年の6月初旬に、地区に生えているチガヤの種子を地域住民が採取
- ②チガヤを育苗
- ③3月にチガヤを地域住民の直営施工により定植

内容



出典：1 チガヤ繁茂状況



チガヤセル苗



チガヤの復元状況

●コンクリート護岸ブロックに植生を回復

改修前の堤防法面に繁茂していた水生植物が、工事後に復元するよう、シードバンクを形成している池底土を活用し植生を回復させます。

- ①満水位以下に多孔質型ブロックを配置
- ②池底土をブロックの空隙に詰める



出典：1

ブロックに池底土を詰めた直後



貯水後、ガガブタ、シャジクモ類が繁茂

【事例 1】

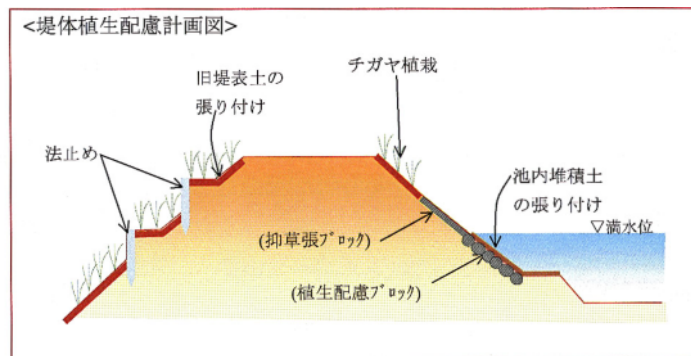
【場所】

兵庫県加古川市志方町西牧地区

【環境配慮の内容と方法、工法】

西牧地区のため池（犬立池、兎ヶ池）改修工事にあたって、希少種を含めた多くの郷土種が確認されたことから、農家、地域住民と話し合いを重ね「貴重な植物を残そう！里池西牧」をスローガンに、工事によって一切の外来種を持ち込まない方針とし、次の工法を実施した。

- ・ 表土の貼り付け
- ・ 在来種のチガヤの植えつけ
- ・ コンクリート護岸ブロックに植生を回復



【事例 2】

【場所】

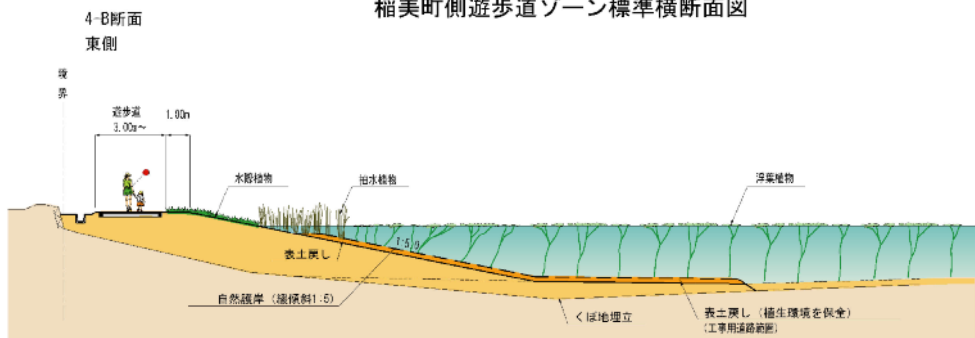
兵庫県加古川市 寺田池

【環境配慮の内容と方法、工法】

- ・ ため池の水際を緩傾斜にし、表土を撒きだして植生を復元



稲美町側遊歩道ゾーン標準横断面図



留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・農家、地域住民が地域の自然環境に理解を深め、主体的な環境保全活動が維持されるよう、生き物観察会、ワークショップによる意見交換を通じた合意形成を図り、植栽など簡易な作業は地域住民と共同で行うことが望ましい。
参考資料	<p>1 兵庫の植物 20 号「兵庫県中南部のため池土手（堤体）で観察された植物 播磨ウェットランドリサーチ 松本修二</p>